

会場
いっぱい

万博ストップ！ 3・3府民大集合



大阪市内で3月3日に開かれた「万博ストップ！3・3府民大集合」では、能登半島地震被災地の石川農民連会長からビデオメッセージ、各界著名人の賛同アピール、たつみコータローさんのトークライブが続きました。

10人のリレートークでは、自治体で働く仲間から「府民の命を守り、安全・安心のために防災予算や人をつけてほしい」（府職員）、「万博予算ではなく、子どもたち・市民にお金をまわして」（大阪市学童保育指導員）とそれぞれ訴えました。参加者から「リレートークは胸が痛みました。この切実な現実、吉村知事に全部聞いてほしいです」と感想が寄せられました。

この成功を力に いまこそ万博の中止へ



大阪府職労の健康医療・保健所支部で支部長をしています

植村 亜由さん

大阪府富田林保健所 保健師

1月16日から5日間、被災地（輪島市）に大阪府から支援派遣された植村さん。保健師としての視点から、被災地の状況をレポートしてもらいました。

能登半島地震―被災地への救援派遣で痛感

へとかわっていききました。

避難所を巡回して 健康を保つ指導を

避難所巡回で、ベッドに寝ている女性に声をかけると、「背中が痛い」と言うので、「いつからですか」と聞けば、「ここへ来てから」とのことでした。体温は36度でしたが、血中酸素濃度は低く88%でした。「座れますか」と聞くと、うなずかれました。「どなたか手伝ってください」と周りに声をかけると、小学生の女の子（お孫さんだそうです）が来てくれて、布団をはがしてくれました。起き上がり、深呼吸をしてもらって、測りなおすと95%に改善していました。座位の効用をお伝

派遣職員5人の活動を 20人で支える神戸市

輪島市内でも門前地区だけ支援が入っていないかったのですが、後になって神戸市が1月8日から入っていることを知りました。被災状況が深刻であったため、厚生労働省が神戸市にぜひ行ってもらいたいと依頼したそうです。神戸市がすごかったのは、現地に派遣された5人の活動を、神戸市内の部局から20人が支えていたことです。

自然災害、感染症など、私たちはいつも脅威にさらされています。予防的視点で関わる公衆衛生の現場が、日頃から万全の態勢でいられる大阪府になっていきたいと心から思いました。

「保健師、保健所職員を増やして」―6万こえる署名で増員を実現

府職員や保健師が減らされ続けるもと、コロナ禍に「保健師、保健所職員を増やして」と声をあげ、現場の声を集めて発信し、6万をこえる署名を大阪府知事と厚生労働大臣に提出。2021年1月15日に記者会見を行い、新聞やテレビでも大きく取り上げられ、保健所のひっ迫した状況を知らせるきっかけになりました。

その後も、大阪労働局への要請アクション、厚生労働省や総務省への要請アクションにも取り組み、コロナ禍の中で各保健所に保健師3人、行政職員1人ずつの増員を実現させることができました。



界に！保健所は緊急事態！
保健師、保健所職員増やして
オンライン署名
61,143人分提出

署名提出の記者会見で「先を見すえた人員体制の構築を急ぐべきだと思います」と訴える植村さん（右から2人目）



おおさか
自治体の仲間

発行：大阪自治労連(大阪自治体労働組合総連合)

2024年3月15日 No.401

〒530-0041 大阪市北区天神橋一丁目13番15号
大阪グリーン会館4階 ☎06-6354-7201 FAX06-6354-7206
E-mail:mado@osaka-jichiroren.jp
URL:http://www.osaka-jichiroren.jp

発行人／坂田 俊之 編集人／尾崎 一美
毎月15日発行（1部10円）組合員の購読料は
組合費に含まれています。